

# 「地域支える医療」を支える

台風19号による大雨の影響で被災した長野市豊野町豊野の診療所「賛育会クリニック」が、11月5日にも問診を中心に再開する方向で準備している。地元では規模の大きい医療機関。医療機器が水没するなど大きな被害を受けたが、通院患者からは薬の処方などの要望が出ているという。29日からは諏訪中央病院(茅野市)がスタッフ1人を派遣して支援に当たる。

## 諏訪中央病院 きょうからスタッフ派遣

同クリニックは社会福祉法人賛育会(東京)が運営。介護老人保健施設や介護医療院などが入った4階建ての建物の1階にある。13日朝に建物1階部分が浸水。患者ら

に被害はなかったが、医療機器の大半が水没し、休業が続いている。数日前から要望のあった患者を対象に訪問診療を始めた。ただ、「通院していた患者らから『薬はないか』との問い合わせが続いている」とクリニックの松村隆事務局長。同じ建物で浸水しなかった2階部分を使って医師の問診や薬の処方から業務を再開することを決めた。

同クリニックには現在、国際医療援助団体「AMDA(アムダ)」(岡山市)がスタッフを派遣。AMDAと諏訪中央病院が今年、被災地支援で協力する協定を結んだ縁で、同病院も支援に加わった。28日には同病院名誉院長の鎌田実さんがクリニックを訪問。「在宅患者を多くのスタッフが訪問し、患者の大変な状況を見れば、(再開に向けての)やる気が高まる」と助言した。

クリニックの宮沢明住院長は「この地域の医療を支えなければならぬ」と役割を強調。今後、下水道の復旧状況などに応じて、機器の洗浄などに水を使う採血検査や予防接種の再開時期も見極めていくとしている。

鎌田さん(左)に被災状況を伝える松村事務局長。28日午後3時32分、長野市豊野町

